

試験研究事例

産業界支援

やきものの焼成技術研究会

支援先

県内製陶業

【内 容】

当校では、例年、ガス窯の焼成技術に関する座学及びガス窯焼成実習（図 1）を行い、陶芸作家が操炉技術の理解及び焼成手法を習得できるよう支援しています。

また、今年度は、陶磁器製品の欠陥であるピンホールの発生原因に関する試験を行いました。ピンホールは、製品の見栄えの悪さや吸水率の上昇に繋がる上、発生原因が多岐にわたり、原因究明が難しい欠陥の一つです。本研究会では、試験結果としてテストピースの実物を紹介しながら、焼成条件及び釉配合によってピンホールの起こりやすさが変化することを説明し、その他の原因（素地や釉への不純物の混入により焼成時に発生した CO₂ ガス（図 2））等も研究会の参加者へ情報提供しました。



図 1 ガス窯焼成実習

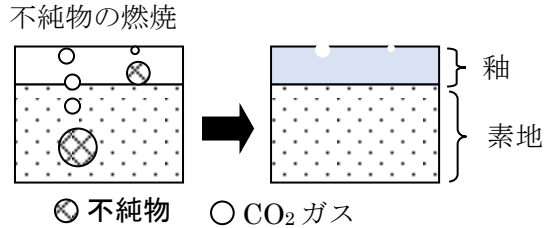


図 2 ピンホール発生メカニズムの一例

基礎となった事業

平成 30 年度 オンリーワン技術開発支援事業（研究会）

現在の担当部門

工芸・材料技術 部 門 長 寺門 秀人 TEL:0296-72-0316
 部門 首席研究員 小島 均
 技 師 曾我部 雄二

試験研究事例

研究会

陶磁器釉薬技術研究会

支援先

県内製陶業等

【内 容】

この研究会では、おもに若手陶芸家の陶磁器用釉薬に関する技術力向上をめざし、釉薬に関する基本的な知識を学んでいただく勉強会を開催しています。平成 30 年度は表 1 のとおり 5 回開催しました。会員 6 名からは、「基本は理解できたので実践していきたい」「独学では無理だったゼーゲル式を理解できたのは収穫」「欠陥の発生に悩んでいたが解消できそう」などの感想をいただき、今後の商品開発や品質向上などに展開していくことが期待できます。より本格的に釉薬を学びたい方を対象とした研修（レディメイドコース，オーダーメイドコース）も実施しておりますので、釉薬に関してお悩みのある方は、まずはお気軽にご相談ください。



図 1 勉強会の様子

表 1 勉強会の日程と概要

回	日程	テーマ
1	7 月 31 日	釉薬原料，釉調合の基本，三角座標
2	8 月 28 日	化学の基礎
3	9 月 12 日	ゼーゲル式，ゼーゲル座標
4	10 月 5 日	ゼーゲル計算方法
5	10 月 23 日	釉薬欠陥の対処方法，素地の物性

基礎となった事業

平成 30 年度 オンリーワン技術開発支援事業（研究会）

現在の担当部門

工芸・材料技術部門 部 門 長 寺門 秀人 TEL:0296-72-0316
 主任研究員 吉田 博和